

供用期間中検査(ISI)計画不備についての原因及び対策について

1. 原因

改定された規程を ISI 計画に反映する際に一部の弁が ISI 計画に反映されなかった。

- 溶接箇所を管理する図面に、弁本体の溶接継手の有無が明確になる運用となっていないかった。(溶接継手がない場合は構造図等を添付しない運用であった)
- ISI 計画の見直しに関する具体的な見直し手順が明確でなかった。
- プラントメーカーに対し、提出する構造図等について具体的な指示が十分なされてなかった。



<主な対応事項>

- ・ ISI 計画の変更に係る手順を社内要領で規定する。
- ・ また、本要領をプラントメーカーへ調達上の要求事項とする。

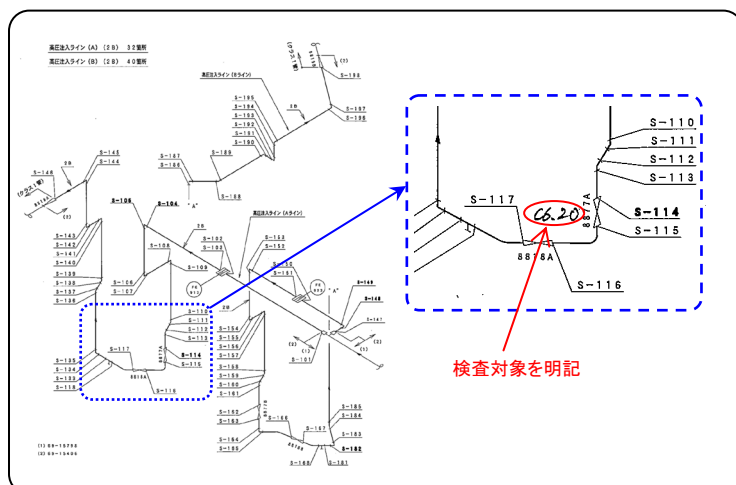
2. 当社事象への対応

- ・ ISI 計画への反映が漏れていた弁を検査計画へ反映した。
- ・ ISI 計画の具体的な見直し手順を社内要領に規定する。
- ・ プラントメーカーに対し、溶接継手の有無を確認することや、その有無に関らず溶接箇所を管理する図面に構造図等を添付すること等を調達上の要求事項とする。

3. 国指示事項（各社共通事項）への対応

- ①溶接線が記載された構造図等を当社とプラントメーカーとの間で情報共有する。
構造図等を提出することを調達上の要求事項とし、設計情報が ISI 計画に確実に反映できる体制とする。
- ②規格改定時の関係部署への情報提供は、既に社内要領に規定し運用している。
ISI 計画の具体的な見直し手順を社内要領に定め、改定内容を確実に反映できる仕組みを構築する。
- ③検査前には、検査箇所を示した検査箇所図を用いて現場確認を既に実施している。
なお、設備改造で ISI 計画の変更が生じる場合は、構造図等と現場の溶接箇所が整合していることを確認する仕組みを構築する。

【溶接箇所を管理する図面の例】



【弁本体の溶接継手の例】

